



Guidelines for Measuring and Control Procedure



測定およびコントロール方法ガイドライン

EDITION 2023 / 2024



Guidelines for the Measuring and Control Procedure (2023/24)

Autumn 2023

測定およびコントロール方法ガイドライン(2023/24) オータム 2023

スキージャンプスーツ

選手の測定

選手は、測定中もコントロール中もリラックスして直立した姿勢でいなければならない。
選手はいかなる場合においても、用品コントローラーの指示に従わなければならない。
選手がボディー測定中にコントローラーの指示に従わなかった場合、測定が拒否される。
選手がコントロール中にコントローラーの指示に従わなかった場合、これは「用品コントロールの拒否」(NPS - ICR 441.5 または ICR 441)として分類される。
基本的なボディー測定では、選手はアンダーウェア(ブラジャー、スリッパ/水着/水泳パンツ)および裸足まで脱がなければならない。伸縮性があり、体にぴったりとフィットするアンダーウェアのみ許可される。
スーツコントロールでは、アスリートはアンダーウェア(ブラジャー、スリッパ)まで脱がなければならない。

ボディー、脚、腕の周囲は、軸に対し 90 度で測定されるが、以下は例外とする：

- A) 腕の長さ: 立った状態で、両腕を胴体から水平に広げた状態で測定する。
胸部筋肉と胸郭の間(写真 1 参照)から手根骨(前腕の終わりで印をつけた部分- (尺骨茎状突起)写真 2 参照)まで前側を測定する。

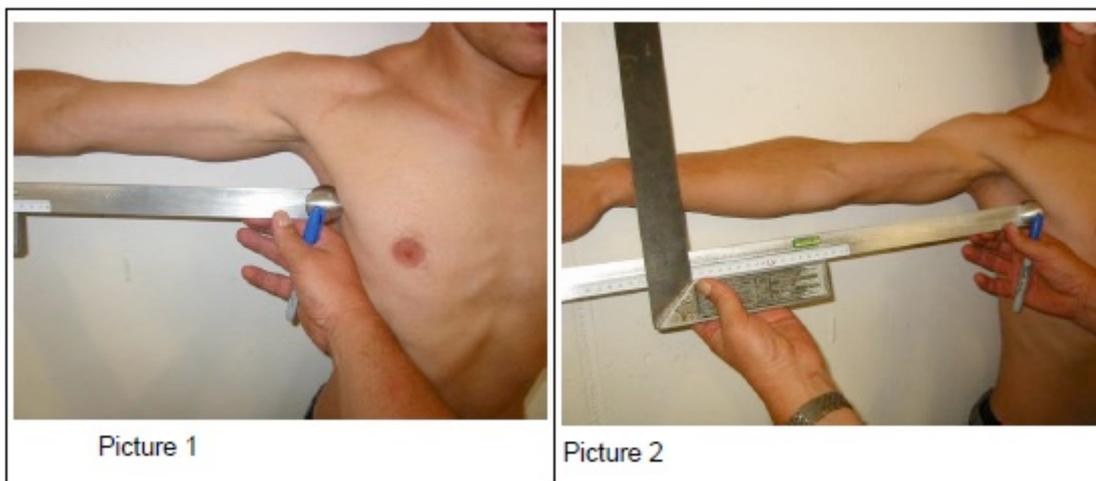


写真 1

写真 2

- B) 身長及び股下の長さの測定

コントローラーによるマニュアル、期間限定で有効 (未確定期間)

選手の身長および股下の長さはレーザーツールで測定され、選手は

- 平らな面(テーブル)に仰向けに横になり、
- 壁に対してまっすぐに立ち
- 頭、肩甲骨、臀部、ふくらはぎ、かかとを両壁につけ、
- 足の間隔は 30cm

- ~~— 脚を壁の支え無しでそろえ、~~
- ~~— あごを中立の位置、または、首に向かって下向きにし、~~
- ~~— 肩を下げる~~
- ~~—~~
- ~~— 座高は、選手は~~
- ~~— 平らな面(テーブル)に直立姿勢で座り、脚はヒザを90度角に曲げ、~~
- ~~— 足を30cm離し、~~
- ~~— 腕を前に90度に伸ばして測定する。~~
- ~~— 股下の長さは、測定した身長から測定した座高を引いて決める。~~

3D ボディースキャン

- FIS 承認の3D ボディースキャナーを使用して実行
- 医師・医療関係者の立ち合いのもと
- アンダーウェアは、伸縮性のある体にぴったりフィットするスリッパ・水泳パンツ・水着のみ
- 姿勢コントロールでは、選手は真っすぐに立たなければならない
- 足を30cm離し、
- アームハンドルの上に腕を真っすぐに置く
- 選手が必要な姿勢を取っていない場合、測定は無効になる。

標準基本ボディ測定要素:

- ・身長
- ・股下の長さ(B,C 参照)
- ・腕の長さ(A 参照)
- ・足のサイズ

選手の要望により再測定が行われる場合がある。
ジュニア年齢(20歳)までの選手は、毎年再測定される。
ただし、大きい数値(高さ、長さ)が考慮される。

スーツの測定

スーツは外側の表面を測定する。スーツは折り目を付けず平らに伸ばす必要がある。スーツにマークが付けられ、選択されたポイントで測定する。それから、選手はマークされ、対応する体の位置で測定する。

- A) 前腕の長さ(AL)は、脇下のシーム(縫い目)の交差点から袖の先端まで、シームに沿って直線に測定する。測定した数値は、腕の実寸を上回ってはならず、かつ最大許容差 4cm を下回ってはならない。
- B) 前股下(脚)の長さ(SL)は、スーツの股下のシームの交差点(SX)からシームに沿って直線で脚部分の先端まで測定する。測定した数値は、測定した選手の股下の長さを下回ってはならない。
- C) 股下: 地面から股下まで垂直に測定する。選手はジャンプスーツ、ジャンプブーツ、ウエッジを着用しなければならない。測定時は足を 30cm 離し、脚を完全に伸ばさなければならない。測定した股下サイズは、**女子は**選手のボディで測定した股下サイズと一致しなければならない、**男子は**+3cm とする。

股下(クロッチ)のシームの交差点(Sx)がスーツの最下部でなければならない。
この交差部分はスーツの中央(前から後ろ)に配置しなければならず、最大許容差は両方向 2cm とする。

スーツをぶら下げたり、テーブル/平らな面に置いたりする間、脚の外側の幅が肩幅の外側の幅を超えることは出来ない。

競技用品/スーツコントロール

選手のボディーのあらゆるポイントを測定可能とし、かつ、スーツ上で対応する点と比較することができる。スーツ、ボディー共に採寸箇所を決める基準点は、ウエストシームの位置である。ボディーの測定はすべて私用のアンダーウェアを着用して測定される。

選手がスーツを着用し測定する際、選手は両腕を伸ばしヒジをボディーから 30cm 離す。脚を伸ばさなければならず、足/ブーツは 30cm 離す。選手は直立姿勢で立たなければならない。

ジャンプスーツはすべての箇所ですべての選手のボディーにぴったりとフィットしなければならない。

スーツ寸法は直立姿勢でボディー寸法と一致しなければならず、最大許容差はスーツのどの部分においてもボディーに対し 最低 2cm、最大 4cm とするが、胴体/上半身は除き最大許容差を男子プラス 6cm、女子プラス 10cm とする。

測定は、肩から胸の中央に沿って、股下に向かい、臀部周辺から肩まで測定する。

ただし、ブーツ周辺部分は例外とする: ジャンプスーツは、ブーツ周辺寸法より最大 10cm 大きくすることができ(ヒザより下)、ブーツを覆わなければならない。スーツは身長に沿って上下に動けるように作られなければならない。スーツはボディーの如何なる箇所に固定することは出来ない。

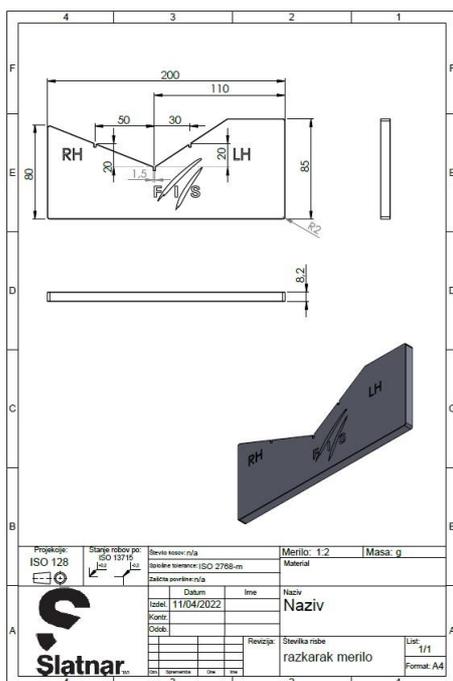
スタートコントロール

選手は、指定されたバーチャルライン前でスタートコントロールの準備をする。スーツを伸ばしたり操作することは認められない。

選手は自然でリラックスした姿勢でコントロールボックスまで歩く。スーツは、スーツ/体のどの部分でも如何なる方法でも固定することは出来ない。

コントロールが行われる際、スーツは全てのパーツでボディーにフィットする必要がある。

選手は、用品コントローラーの指示に従わなければならない。そうしなければ、コントロールが拒否される可能性がある(NPS-ICR 441.5 または ICR441)。



ボディウエイトコントロール

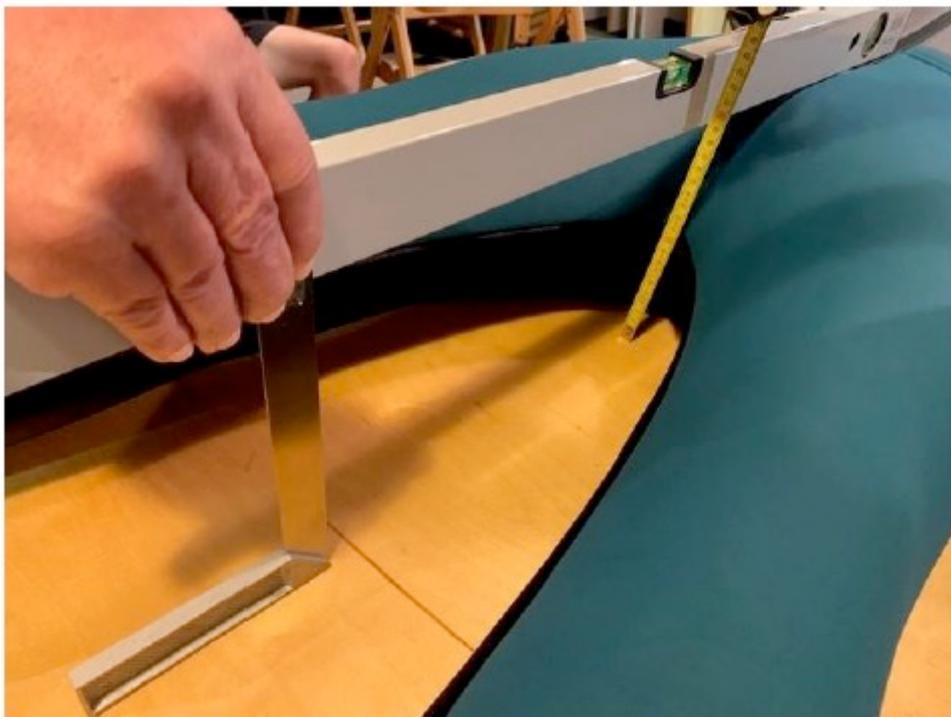
ボディウエイトコントロールは、ヘルメット、ゴーグル、グローブ、スキージャンプブーツ、ウエッジ、ジャンプスーツ無しで行われる。

脇-肩部分の測定

脇-肩周りの測定は、選手がスーツを着用している際に測定される。腕はボディから45度の角度で伸ばす。選手はまた、スーツを着用せずに測定され、腕をボディから45度で伸ばした状態で測定される。

髪の毛をスーツの中、又は、スタートビブ(ゼッケン)の下に収めることは認めない。髪の毛はスーツ外側にゆるくそのまま、もしくはヘルメットの中に収める。

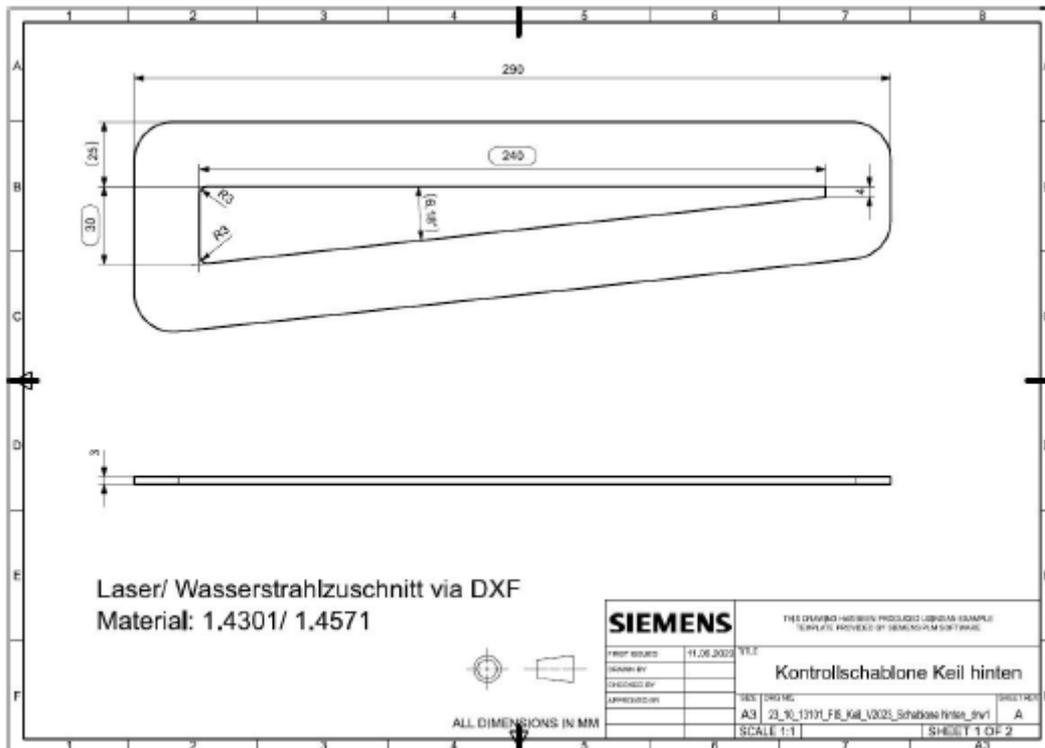
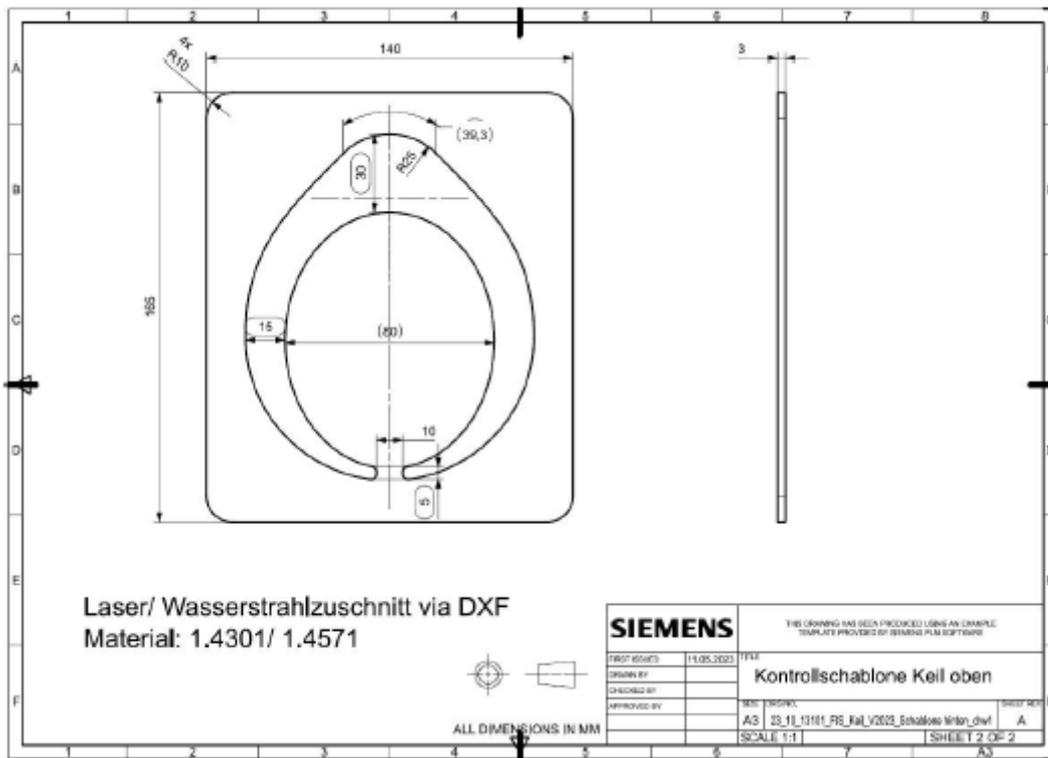




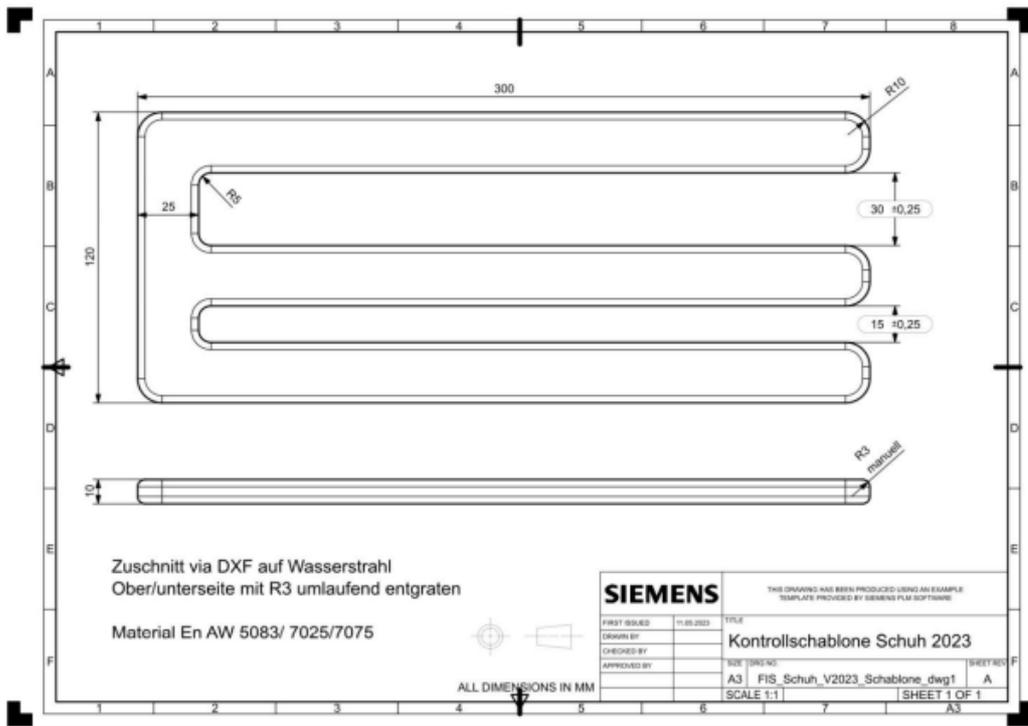
トランスポンダー及びモーションセンサー

ライブで届きデータが記録されるトランスポンダー及びモーションセンサーが、公式データ及びスコアリングプロバイダーにより提供され、FIS に承認される。これらは、いくつかの大会の公式練習、競技会において選手によりビンディングの前部分に装着されなければならない。トランスポンダー及びモニターセンサーは、選手のスPEEDやポジショニングなど外部データを届ける。このサービスは、公式タイミグ及びデータプロバイダーにより提供され、発生したデータは無料で各 NSA 及び FIS に提供されなければならない。

ウエッジ



ジャンプブーツ



バックプロテクター

バックプロテクターのサイズ

S	身長	120-140 cm
M		135-155 cm
ML		150-170 cm
L		165-185 cm
XL		180-205 cm

上



下